

2



3

14

LEADING COMPANY

島根県東部を中心
に幅広い事業を展開

1912年創立。『目のお薬師様』

として全国的に信仰を集めた『一畑
薬師』と、出雲の中心地を鉄道で結
ぼうと、地域の人々によって組織の
礎が築かれたのが長い社史の始まり
だ。その後、交通事情や需要の変化
に伴い、バス・タクシー事業も手が

け始め、50年には当時全国最長とな
る松江から広島まで200キロの長
距離バス運行を実現し、注目を集め
た。

都市部の大手鉄道会社同様、55年
頃から経営多角化に着手。山陰初の
本格的な百貨店や遊園地、ホテル、
観光など関連事業を展開するととも

に、自動車の教習所や車両整備、住
宅設備工事なども手がけていった。
山陰や島根県内で初めて実施した事
業も多く、常に挑戦心を抱いて地域
を牽引してきた。鉄道事業だけで採
算が取れる都市部と違い、地方では
経営も容易ではない。「地域協働で
新たな価値を創造し、豊かな郷土づ
くりに貢献する」というグループの
経営理念が原動力となってきた。
2006年に事業再編を行い、持
株会社化した『一畑電気鉄道株式会
社』がホールディングスとして13の
グループ会社を統括・サポートする。
約30年勤めた山陰合同銀行を離れ、
15年から経営に参画した足達明彦社
長(65)は「ものすごくいろんなこと
をやって驚きました」と笑う。



4



総合力を発揮し、地域協働で
豊かな郷土づくりに貢献する

鉄道やバス、タクシーの運輸業を始め、ホテル、観光などのサービス業や建設業まで、多彩な事業展開で地域の暮らしを豊かにしている《一畑グループ》。総合力の高さが強みの一つだ。



①一畑バスでは旅行客に人気の高速乗合バスも運行 ②台湾の名勝や景勝地イラストを施したラッピング車両 ③各ドライバーが運転するタクシーは、毎日入念に点検を行う ④地元の特産品を豊富に揃える観光センター「いのちも」 ⑤指定管理者として、島根県立古代出雲歴史博物館を運営 ⑥出雲・隠岐空港でJALの空港業務を担当するタクシートラベルサービス ⑦旅行客を笑顔で出迎えるホテル一畑フロントクラーク ⑧地域のインフラ整備を担う一畑工業社員 ⑨一畑住設は、鉄道架線設備の保守管理も実施 ⑩グループ車両の保守点検も任されるカーテックス一畑 ⑪一畑電鉄は持株会社としてグループ会社を統括・サポート ⑫⑬住宅型有料老人ホームや企業主導型の保育施設も運営

コロナ禍を越え、挑戦を力に変える経営

異業種から転身し、19年に社長に就任した足達社長がまず力を入れたのが、自社が展開する事業の幅広さ。だから、一般の人ならなおさらのこと。従来は電車やバスをメインにアピールしていた就活生向けの合同企業説明会で、『株式会社一畑パーク』が指定管理者として運営する『松江フォーゲルパーク』の人気者、ハシリココウや、JALグループとして空港業務を行う『株式会社一畑トラベルサービス』の空港グランドスタッフの写真を展示するなどして、積極的に紹介していく。

幅広く展開するグループ事業を見直し、テコ入れに取り組み出した矢先、コロナ禍が襲った。「うちは人を集め移動させて『体験』を提供する会社なのに、何にもできなくて苦しかった」と振り返る足達社長。グループの多くの事業で足踏みをする苦儀なくされ、24年1月には『一畑百貨店』を断腸の思いで閉店した。小売り部門で断トツの売り上げを誇っていた柱の一つがなくなったのを機に、交通と観光を主軸に総合力を発揮できるようグループの立て直しを図る取り組みも行っている。

モチベ向上や福利厚生に注力 保育園や老人ホームも設置

社長就任直後に「コロナ禍に襲われた足達社長にとって、社員のモチベーションの維持・向上は重要なテーマだった。「当時ホテルなどに入社した社員はお客様と接する機会がほとんどなく、接客を通して仕事を覚えることも、接客の喜びを得ることも難しい状況でした」。そこでグループの全社員にアンケートを行い、自らが直接回答を見て、社員の現状に寄り添った。高い必要性を感じた場合には人事異動も行い、現場を積極的に訪れて直接社員を励ました。22年に始まった全国旅行支援事業を機に徐々に旅行客が戻り始め、ホテルの宿泊者数も大きく伸びている。グループ規模を生かした福利厚生も進めてきた。18年には企業主導型の保育施設『キッズいちばた』を開設。グループで働く社員の子どもや孫を対象とするが、地域住民からの受け入れも募っている。休日に需要の高いサービス業を担う社員が多いことから、土日祝日はもちろん利用園児がいれば年末年始やお盆なども含む365日開園している。

19年には住宅型有料老人ホーム『ホームいちばた』を開所。都会的な暮らしを希望する高齢者が多いこ

とや、家族らの面会の利便性などを考え、福祉施設としては珍しく、駅前に設けた。足達社長は、「今後も自社の交通網を生かしつつ、遊休不動産を活用して地域ニーズが高いサービスを展開し、豊かなまちづくりに貢献したい」と話す。

健康経営にも注力しており、25年前に前年度に新設された健康経営優良法人（中小規模法人部門）「スマートブライト1000」に認定された。大塚製薬と連携協定を締結し、社員だけでなく、地域住民の健康増進を図る取り組みも行っている。また人材不足が課題となる中、25年4月には県西部の在住者をリモート勤務枠で採用。26年からは外国人の人材登用も予定している。

旅が好きで、今年国内47都道府県を制覇した足達社長。「旅の魅力は、知らない場所と人に出会え、その土地を五感で味わえること」。そう語り、ともに働く仲間には、島根が好きで、島根のために働きたいと企画を一緒に考えていくたい。既成概念にとらわれない数々の挑戦で地域を盛り上げてきた一畑グループ。さうなる歩みとともに進める仲間を求めている。

しを図つていった。特に力を入れるものが、鉄道の定期外利用者の増加だ。地元住民の足として存続を使命とする一方、人口減少は避けられず、いわゆる「定期外」と言われる非日常の需要増が力となる。24年にアッサセした全国初の本線上での体験運転をスタート。実はこの企画を最初に思い付いたのは、小さい頃から電車が好きだったという足達社長だった。「本線の分岐点を通過できたら面白いのは」。素人の思い付いた企画を示したものの、社内で案を練った末、最終電車で到着した後に実際の線路を運転してもらいうプランが完成した。「全国の鉄道ファンから大きな反響をいたたいています」

また、25年10月に新型車両を導入したのに合わせ、友好協定を締結する台湾の『国営台湾鉄路股份有限公司』との相互車両ラッピング事業を企画。一畑電車の車体には、台湾の名勝や景勝地などをイラストで載せる一方、台湾鉄路の車両には、島根県の観光地などを同様に施した。乗車券交流事業が力を奏して年間約500人が台湾から訪れ、今後もツアーや企画するなどして呼び込みを強化していく。また、縁が深い関西の私鉄との相互誘客も進めている。



運行部 出雲営業所 運行課
園山 天志さん(22)
2022年入社



【一畑バス 株式会社】

路線バスや貸切バスに加え、高速乗合バスや隠岐汽船接続バスも運行する一畑バス。入社4年目の園山さんは、路線バスと近距離の貸切バスの運転に携わっている。「貸切バスを受け持つ時は、事前に地図で交差点の場所をチェックするなどして、スムーズに運行できるように努めています。地図アプリに頼りっぱなしだと、生活道路に誘導されることもあるのでアナログが大事です」と笑う。

父親が同じ会社の貸切バス運転士をしていて、憧れだった。「大きなバスを自分の体の一部のように操っていて格好良かったんです」。自身も現在10~12メートルのバスを運転する。「死角を減らす対策は取られていますが、まずは安全第一。その上でお客様とのコミュニケーションや明瞭なアナウンスなどにも気を配っています」



業務部 営業課
宅野 康平さん(30)
2020年入社



【一畑電車 株式会社】

「ばたでん」の愛称で地域住民に親しまれている一畑電車。宅野さんは電車の運行業務を担いつつ、イベントの企画・運営なども行う全国的に珍しい“二刀流”運転士だ。「自分が予約対応した貸切列車を、自ら運転してご案内することも」

大手鉄道会社で車両メンテナンスを専門に行っていたが、動力車操縦者の免許を取得して運転業務も担うように。帰郷後も培った技術を生かそうと当社を選んだ。乗客と運転士が顔の見える関係を築ける点を魅力に感じている。

「ばたでんグッズも各種企画。平成初期に運行していた4種類の車両のイラストを並べて載せたクリアファイルや、8001系缶バッジなどは宅野さんが考案した。「移動手段以外にも電車の魅力はたくさんある。発信していきたい」



サービス部 一般サービス課
原 立成さん(26)
2022年入社



【株式会社 カーテックス一畑】

一般車両の点検、整備、車検などを幅広く担っているカーテックス一畑。原さんは、グループ会社である一畑住設で働く父親の勧めもあって入社を決めた。「大学では情報デザインを学んでいたので一時はIT業界も考えましたが、車にも興味がついて」。先輩の指示を仰ぎながら実務経験を積んで、3級ガソリン自動車整備士の資格を取得。現在は普通車や軽自動車の車検や整備を担当する。

修理を行う上で必要なのが故障原因を探ること。「異音と一口に言っても、音によって想定される原因が違います。後部からゴーゴーという音が聞こえたらベアリングの劣化が考えられるなど、最近少しづつ判別できるようになりました。より技術を磨き、高サービスを提供できる整備士になりたい」。今後は2級整備士に挑戦する予定だ。



営業部 営業課
願永 大地さん(27)
2025年入社



【松江一畑交通 株式会社】

松江市を拠点にタクシーや貸切バス、空港連絡バスを運行する松江一畑交通。幼い頃から高齢者との関わりが多い環境で育ち、福祉関係の仕事を視野に入れていた願永さんは、ドライバーの求人を知って門を叩いた。「車の運転は好きだったので長く続けられる気がして」。祖母や曾祖母と暮らした経験から、移動に困る高齢者らのサポートができる点にも惹かれた。内定後、会社の補助を得て普通自動車二種と大型自動車二種を取得。現在はバス運転の研修を受けつつ、タクシーのハンドルを握る。観光地案内以外で多くの時間を病院への送迎だ。「『あんたらがいなくなったら困るからね』とよく言われ、タクシーの必要性を痛感しています」。休日は松江市内の地図を見たり、ドライブしたりして地理の勉強に勤しんでいる。



建築部 工事課
板垣 敦也さん(27)
2021年入社



【一畑工業 株式会社】

建築・土木・鉄道保線・ドローン事業を行う一畑工業。板垣さんは、公共施設からビルや福祉施設、住宅などの新築・改修を担当。25年には松江市の高機能消防指令センターの機能強化を狙った整備工事を担当。初めて一人で現場監督を務めた。「業務の妨げにならないように気をつけつつ、並行する設備工事のスタッフと連携しながら作業にあたりました」。同工事は25年度の松江市優良工事に表彰された。

子どもの頃から工作や絵を描くのが好きで、大学では建築を学んだ。大工だった祖父や曾祖父を始め、周囲にも建築関係の人間が多くいた。「つくったものが形に残り、誰かの役に立つことにずっと関心をもっていた気がします」。何でもできる技術者を目指して、現在、一級建築士の資格取得に挑んでいる。



営業部 営業課
岩成 裕美子さん(47)
2024年入社



【出雲一畑交通 株式会社】

出雲市を拠点に各種タクシーや貸切バス、空港連絡バスを運行する出雲一畑交通。岩成さんは、乗客の要望に応じて病院やデイサービスの送迎などを行うほか、観光タクシーの乗務員として快適な旅をサポートしている。「玉造温泉に宿泊のお客様を大社や松江、安来などへ2日間にわたりてご案内したこともあります。一般的な観光地情報だけでなく、地元ならではのエピソードなども交えてお客様に楽しんでもらえる工夫をしています」。一方、足が不自由な人を送迎する際などには、降りた時に手すりを持ちやすい場所を意識して停車するなど細やかに配慮する。

元々神社や観光地めぐりが好きだったが、これまででは子育てを優先して仕事を選んできた。子どもの高校卒業を機に転職。「家族からは『楽しそうだね』と言われます」



TDS事業部 技術課
富田 輝一さん(24)
2020年入社



【一畑住設 株式会社】

電気、通信、管、建材事業の4事業を営む総合設備工事のほか、鉄道架線設備の設計・施工・保守管理を担う一畑住設。富田さんは、工業高校で学んだ電子回路や通信技術、ハードウェア技術などの知識を生かせる職場として選んだ。「オンラインゲームが好きで、遠くの人と対戦できる仕組みにも興味がありました」

建物内で電話やインターネットが利用できるよう配線工事や機器の設定・設置を行い、時には天井裏での作業も。「電線や火災報知器などさまざまな線の合間を縫ってケーブルを通すのは大変」。故障や不具合の対応では、原因を丁寧に探った上で、顧客の業務の妨げにならないようスムーズな作業を心がけている。帰宅後や休日は1級施工管理技士の勉強に励みつつ、母校のサッカーチームのコーチにも力を入れる。



運行課
荒田 菜愛さん(30)
2025年入社



【隠岐一畑交通 株式会社】

隠岐の島町内で路線・貸切・空港連絡バスの運行、レンタカー事業を行い、地域住民や観光客の足として不可欠な存在の隠岐一畑交通。荒田さんは新人の路線バスドライバーとして全長7メートルの車体を操り、通学や通院に利用する乗客の暮らしを支える。「お客様の命を預かる仕事。気を張り詰め過ぎて、帰宅後はドッと疲れが出ますが、やりがいを感じています」と話す。

10代の頃から大型車の格好良さに惹かれていた。高校卒業後は異業種に就職したものの、求人を知って転職。「季節や時間帯によってさまざまな表情を見せる隠岐の自然。運転しながら故郷の魅力を満喫できるのがうれしい」。会社の研修に加え、自ら運転技術の向上に勤しみ、将来的には大型貸切バスの運転も視野に入れている。

一畑グループ

創立 明治45(1912)年4月6日
代表者 代表取締役社長 足達 明彦
社員数 1071名(男758名 女313名)
本社 島根県松江市中原町49

事業内容

自動車運送事業、鉄道事業、建設業、住宅総合設備、旅行業、航空代理業、ホテル事業、自動車教習事業、土産品販売、飲食業、自動車販売、整備事業、不動産、広告、保険、オートリース、ICT、介護事業、保育事業、島根県立古代出雲歴史博物館の運営

勤務地(採用エリア)

松江市、出雲市、隠岐郡、境港市

採用区分

新卒採用 キャリア採用

インターンシップ・キャリア

有 随時受け付け。まずは問い合わせ先まで連絡を。

採用担当者からあなたへ

「一畑グループは総合力を発揮して、地域協働で新たな価値を創造し、豊かな郷土づくりに貢献します」をグループの経営理念として掲げ、島根県東部を中心多角的に事業を展開しています。「地域のために働きたい」という思いをお持ちの方、ぜひ一緒に働きませんか?



採用に関するお問い合わせ先

0852-26-1313

公式サイトは
こちら

採用直通
メールは
こちら



【株式会社 一畑トラベルサービス(旅行部)】

日帰りから海外まで多彩な旅を提案する一畑トラベルサービス。外国語を専門に学ぶ大学に進学した西田さんは、卒業生に人気の就職先の一つだった旅行会社を職場に選んだ。「多くの人にとって旅は大イベント。そんな旅に携われれば」

電話やメールでのツアー受付や国内団体航空券の手配を担当。自ら添乗員としてツアーに同行し、旅行者の安全確認やスケジュール管理なども行っている。「多い時には40人のお客様に同行したこと。時間通りに集合してもらえるよう伝え方を工夫しました」。コミュニケーションは得意ではないが、自ら積極的に話しかけて旅行者の笑顔を引き出している。

今後挑戦したいのは新たなツアー商品の企画。「若い人に興味を持ってもらえる商品を作りたいです」



営業企画部 国内企画課
西田 恋雪さん(25)
2023年入社



営業部 営業管理課
杉村 唯さん(23)
2023年入社



【株式会社 一畑パーク】

花と鳥のテーマパーク《松江フォーゲルパーク》を運営する一畑パークで、来園者対応や団体予約管理などを担当。来園者は子どもから高齢者まで幅広く、臨機応変な対応が求められることも。「足が悪い方には車いすをお貸したり、車で高台の温室まで送迎したりします。丁寧な対応で、多くの人に楽しい時間を過ごしてもらえば」

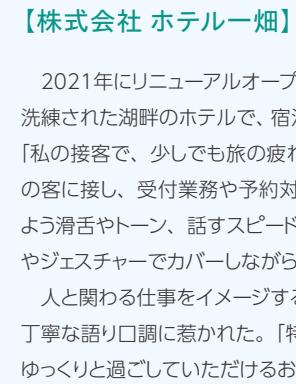
高校卒業まで山口県で暮らしていたが、幼い時に家族でパークを訪れたのを機にファンになった。転職を考えていた時に同社の求人を知って、大好きな場所のスタッフに転身。「表情筋が最低限に抑えられている鳥は、表情が乏しいと言われますが、くちばしや羽根などの動作でさまざまな気持ちを表現するんです。そこが魅力です」。鳥への熱い思いとともに働く。



営業部 営業課 宿泊係
野上 優月さん(20)
2024年入社



野上 優月さん(20)
2024年入社



【株式会社 ホテル一畑】

2021年にリニューアルオープンし、高付加価値なサービスを提供するホテル一畑。洗練された湖畔のホテルで、宿泊客を出迎えるフロントクラークの一人が野上さんだ。「私の接客で、少しでも旅の疲れを癒していただければ」。多い時は1日で約250人の客に接し、受付業務や予約対応などを行う。「隣で接客する同僚と声がかぶらないよう滑舌やトーン、話すスピードに気をつけています」。英語は得意ではないが、表情やジェスチャーでカバーしながら海外からの訪問客ももてなしている。

人と関わる仕事をイメージする中、ホテルスタッフの話を聞く機会があり、やさしく丁寧な語り口調に惹かれた。「特別感を味わえるのがホテル。お客様が時間を忘れてゆっくりと過ごしていただけるお手伝いをしていきたい」



観光センターいづも
岡 なつきさん(35)
2024年入社



岡 なつきさん(35)
2024年入社

【株式会社 いづも】

出雲・松江市内5拠点で、土産物販売や飲食提供などを行っているいづも。岡さんは、出雲大社わきにある《観光センターいづも》で、食事やガイドの予約受付や電話対応をメインに行っている。時には観光客相手に出雲大社境内を案内することも。「専門のガイドの方に付いて学びましたが、興味を持って聞いていただけるように話すのに四苦八苦しています」

専門学校卒業後は大阪のホテルに勤務。非日常空間の雰囲気が好きだったこともあり、Uターン後も観光に携わる仕事を選んだ。「がちがちのマニュアルがあるわけではなく、自分で工夫しながら仕事を行える点が気に入っています」。帰郷して、出雲に流れる時間の心地よさを再認識。「ゆったりとした土地柄が私には合っています」



教務部 教務課
藤原 憲也さん(26)
2024年入社



藤原 憲也さん(26)
2024年入社

【株式会社 平田自動車教習所】

自動二輪から大型バスまで、すべての免許が取得可能な県東部唯一の“総合教習所”である平田自動車教習所。藤原さんは教習所近くの高校に通っていたこともあり、3種類の免許を当教習所で取得。縁のある場所だ。「乗物は好きだったし、前の職場での経験から、人に教える事が向いている気もしていました」

入社後、普通車をはじめ自動二輪、大型特殊車など5種類の指導員資格を取得。「会社が取得費用を全額負担してくれる所以挑戦しやすいです。将来的には全車両の資格取得を目指したいです」。教える相手は、18歳から親世代まで年齢も立場もさまざま。教え方次第で生徒の運転技術取得のスピードが変わることもあり、相手に合わせた指導を心がける。生徒の成長が大きなモチベーションにつながっている。